



1 皮ごと食べられる!

バナナウリ

2 食べごたえバッグン

おうち野菜 すっきりメロン

3 お手ごろサイズがゴロゴロ!

黄冠まくわ



デザートを育てたい! マクワウリ

昔から親しまれてきた
デザート野菜ですが、
最近では新品種も
多数、登場していますよ。

深町貴子（園芸家）



4 放任でも次々に実がつく

本気野菜 スイートミニメロン

5 昔ながらの品種

銀泉甜瓜

6 病気に強くて育てやすい

ニューメロン

写真提供／カネコ種苗、サカタのタネ、サントリーフラワーズ、タキイ種苗、ナント種苗

① **バナナウリ**／皮も肉質も甘くて柔らかく、皮ごと丸かじりできる。開花後30~55日がとりごろで、収穫してから5日間ほど追熟させると、さらに甘くおいしくなる。（カネコ種苗）

④ **本気野菜 スイートミニメロン**／整枝しなくとも実がつき、地植えでは1株で15~20個収穫できる。重さは150~200g。果実全体が、うっすら黄色くなったら食べごろ。（サントリーフラワーズ）

② **おうち野菜 すっきりメロン**／肉厚の果肉は食べごたえと、すっきりとしたさわやかな甘さが持ち味。緑色の実が黄色に変化し、長さ20~22cmになったら収穫のタイミング。（サカタのタネ）

⑤ **銀泉甜瓜**／昔ながらの品種で、糖度14度にもなる人気種。黄金色の皮に白い縦縞の珍しい見た目が目を引く。育てやすく、400g前後の大型の実をたくさん収穫できる。（ナント種苗）

③ **黄冠まくわ**／濃い黄金色の実が目を引く。重さ350g前後にもなる楕円形の実が次々につく、育てやすい品種。純白で肉厚な果肉にはさわやかな甘みがあり、柔らかい。（ナント種苗）

⑥ **ニューメロン**／重さ300gほどの実が一齊につく極早生種。暑さにも湿気にも強く、丈夫で病気にかかりにくい。白い果肉はサクサクと歯触りがよい。（タキイ種苗）



マクワウリ

メロンのような味わいですが、
メロンより丈夫で初心者にもおすすめ。
ポイントを押さえて成功させましょう!

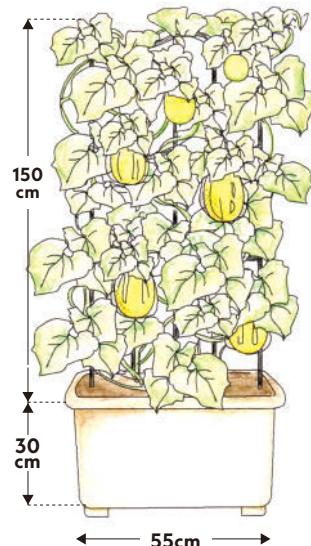
収穫前に水やりを控えて 甘~い実を収穫!

どんな品種でも、収穫適期になると実際にひびが入ってきます。そうなったら水やりストップ。水を切ることで果実の糖度が上がり、甘くおいしい実を収穫できますよ。

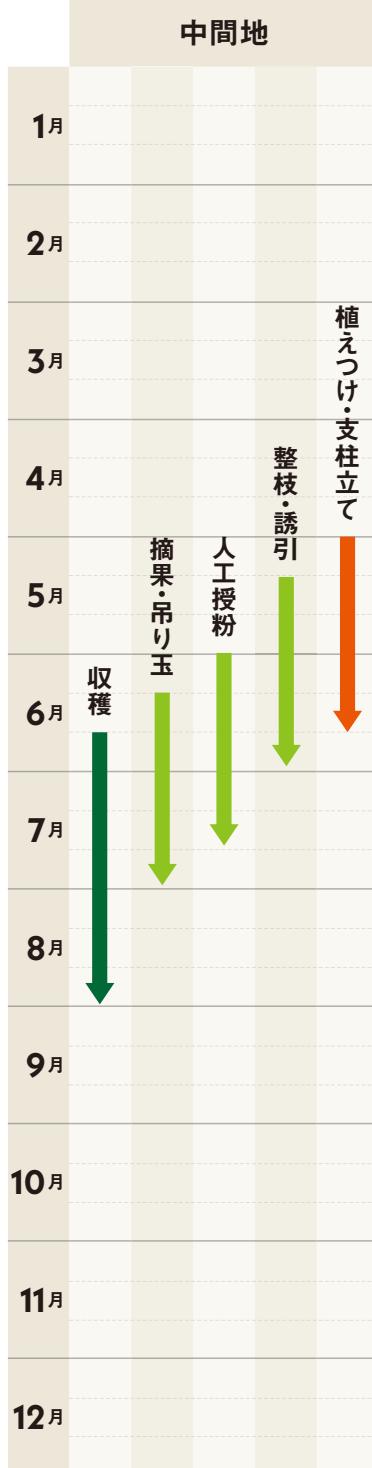


1株で最大9個とれる!

収穫目標は6~9個。
9個とれたら大成功です!



横長プランター
・幅55cm×奥行き30cm×深さ30cm程度
・容量約25ℓ



プランターは横長が おすすめ

マクワウリなどのウリ科野菜は、根が多く酸素を必要とするため、浅く広く根を張ります。表面積の広い横長プランターのほうが生育がよくなり、おすすめです。

トレリスに平面的に つるを誘引しよう

つるが旺盛に伸びるので、支柱を立ててつるを絡ませながら育てます。栽培途中で整枝をする必要があるので、親づる、子づる、孫づるを見分けやすいよう、平面的に誘引できるトレリスを利用します。



撮影／大泉省吾、尾崎誠、福田稔、渡辺七奈、深町貴子 イラスト／阿部真由美、深町貴子(65ページ) スタイリング／濱中麻衣子(山口もえ) ハア&メイク／HIROKO(山口もえ)
構成・文／北村文枝 撮影協力／カネコ種苗、大和プラスチック 衣装協力／blunt(バント)赤ちゃんズ(グランジ) SUPERTHANKS、スバルサンタス(ワン・シルダーチェックパンツ)

● 適期植えつけ直後 ●

STEP
2

支柱として トレリスを立てる

平面的につるを誘引するため、
トレリスを立てます。
支柱で骨組みを作り、
園芸用ネットを張っても。



幅50cm×高さ150cm程度のトレリスを立てる。手前に倒れないように、深くまでしっかりとさし込む。

● 適期5月上旬～6月中旬 ●

STEP
1

苗を植えて 仮支柱で支える

4月から出回っている苗入手して
植えつけます。根の活着をよくするため、
仮支柱も忘れない。



- マクワウリの苗
- もとごえ 元肥入り野菜用培養土
- 仮支柱… 割り箸など
- トレリス



苗を植える

鉢底石を敷いて縁から2～3cm下まで培養土を入れ、中央に植え穴をあける。本葉3～4枚の苗を植える。根鉢を崩さないように気をつけよう。



仮支柱を立てる

手で株元を軽く押さえたあと、割り箸などを株に対して斜めにさし、株のグラつきを防ぐ。はす口をつけたジョウロで、水をやる。

POINT

本葉7枚以上なら、
摘心してから植える

苗の時点で本葉が7枚以上あつたら、摘心してから植えましょう。その後の生育がよくなります。

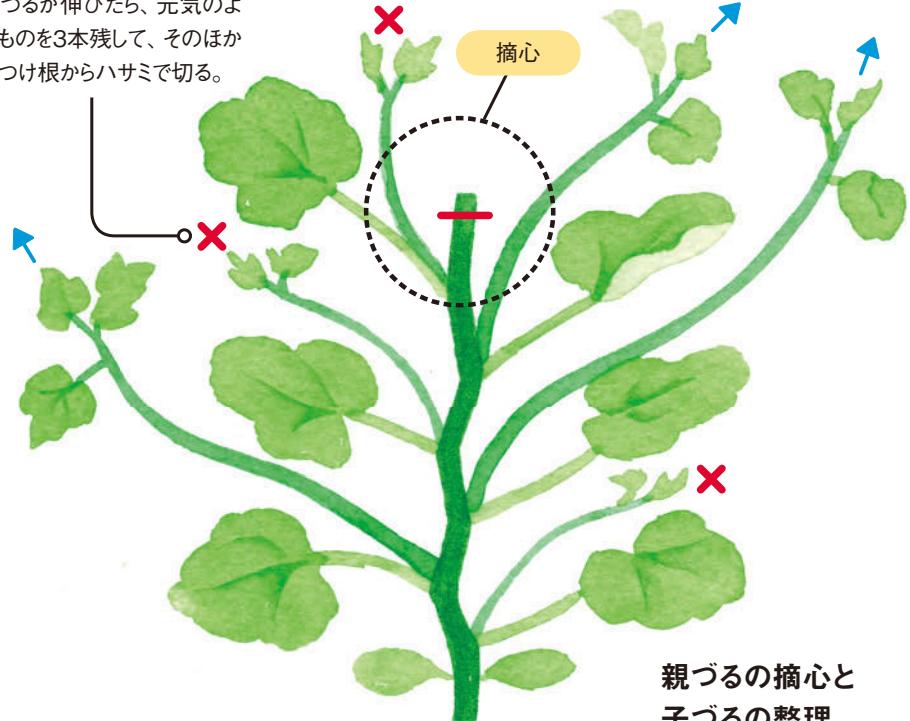
STEP
3

整枝でつるの数と長さを限定し、誘引する

孫づるに雌花がつきやすいので、まずは親づるを摘心して子づるを出させ、その後孫づるを伸ばすように整枝します。
伸びたつるは適宜、トレリスに誘引します。

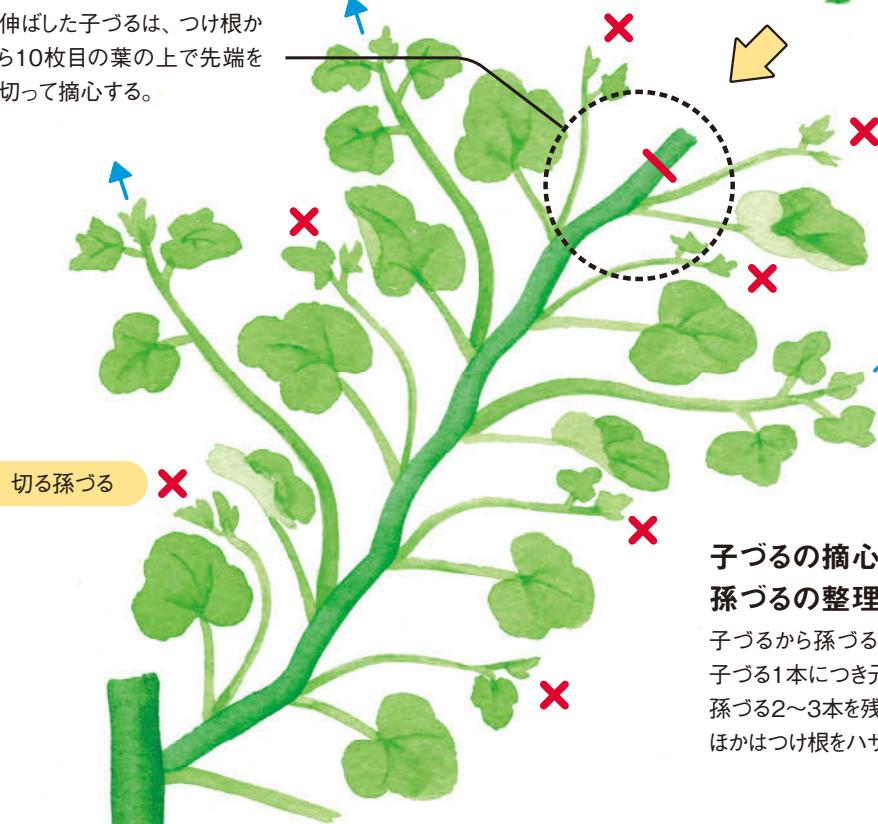
切る子づる

子づるが伸びたら、元気のよいものを3本残して、そのほかはつけ根からハサミで切る。



親づるの摘心と子づるの整理

親づるが本葉7枚以上になつたら、下から6番目の葉の上で先端を切って摘心する。



子づるの摘心と孫づるの整理

子づるから孫づるが出たら、子づる1本につき元気のよい孫づる2~3本を残して、そのほかはつけ根をハサミで切る。

つるを全部伸ばすと
よい実がならないよ!





[置き場]

日当たりのよい 場所に置く

寒さが苦手なので、日当たりと風通しのよい場所で栽培。風通しが悪いと、病害虫が発生しやすくなる。

[水やり]

表土が乾いてから行う
地表面に浅く張る根は、酸素不足に弱い。水をやりすぎで土が常に湿った状態になると、根腐れを起こす。
土の状態を見て、表面が乾いてからたっぷり与える。

[追肥]

2週間に1回施す

実がつき始めてから2週間に1回、水で規定倍率に希釀した液体肥料を施す。
生育前半に肥料が多いと「つるボケ」するので、タイミングを守ろう。

[病害虫]

うどんこ病に注意

乾燥すると発生しやすい、
うどんこ病に要注意。風通しが悪いと特に発生しやすくなるので、できるだけつるを広げて誘引。病気にかかった葉は早めに取り除くか、適用のある薬剤を散布する。

DATA

●科名

ウリ科

●発芽適温(地温)

20~30°C

●生育適温(気温)

25~30°C

●病害虫

アブラムシ、ウリハムシ、
うどんこ病など

適期:植えつけの約1か月後

人工授粉で

確実に着果

STEP
4

株が小さいときは雄花が多く咲き、成長すると雌花が咲くようになります。人工授粉で、確実に実をつけさせましょう。花粉がたくさん出ている、午前9時までに済ませることが大切です。

▶雄花を摘み取って花びらを取り除き、雌花の中心の雌しべに花粉をつける。



STEP
5

適期:植えつけの約1か月後~

実がつき始めたら

追肥スタート

受粉が成功して雌花のつけ根の実がふくらみ始めたら、2週間に1回、水で規定倍率に希釀した液体肥料を施します。それより前から肥料を与えると、茎や葉ばかりが茂って花や実がつかない「つるボケ」になります。

STEP
6

適期:人工授粉の約1週間後

摘果でよい実を

つけさせる

養分の分散を防いで残す実を充実させるため、摘果します。孫づる1本につき1果を残して、そのほかは小さいうちに切り取ります。

STEP
7

適期:人工授粉の7~10日後~

吊り玉で

実の重みを支える

摘果で残す実が決まったら、ネットなどでトレリスに吊り下げる。実の重さでつるが折れてしまわないよう、小さなうちに行いましょう。



▶伸縮性のある排水口ネットなどで実を包み、麻ひもなどでトレリスにしっかりと固定する。

STEP
8

適期:6月下旬~8月下旬

実にひびが入ったら

収穫する

品種にもますが、受粉後40日ほどで収穫できます。実にひびが入ったり、甘い香りがしたりしたら収穫のタイミング。熟れすぎると味が落ちます。また、大きしすぎるとネットが破れることも。



マクワウリは、皮をむいて中のタネを取り、サラダとして食べたり、浅漬けにしたり。生ハムを巻いて食べるのも、おいしいですよ♥

→ 収穫までの管理・作業は、次号以降の「今月の作業」でも紹介します。